

平成 29 年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日 平成 29 年 4 月 18 日(火)

3. 調査対象 小学校 第 6 学年 中学校 第 3 学年

4. 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査 小学校第 6 学年：「国語 A」「国語 B」「算数 A」「算数 B」
中学校第 3 学年：「国語 A」「国語 B」「数学 A」「数学 B」
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5. 能勢町の参加状況

能勢小学校 実施児童数 52 名 能勢中学校 実施生徒数 67 名

6. 公表にあたって

- 本町は公立小学校 1 校、公立中学校 1 校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は、学校単位の公表となるため非公表とする。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の一部であることに留意する必要がある。

7. 調査結果概要

①平均正答率の国・府との比較

全国と大阪府の平均正答率を比較し、+-5%未満は「同等」、5%以上上回る場合は「上回る」、5%以上下回る場合は「課題がある」と表記

	小学校				中学校			
	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)
大阪府比	同等	同等	同等	課題がある	同等	同等	同等	同等
全国比	課題がある	課題がある	同等	課題がある	同等	同等	同等	同等

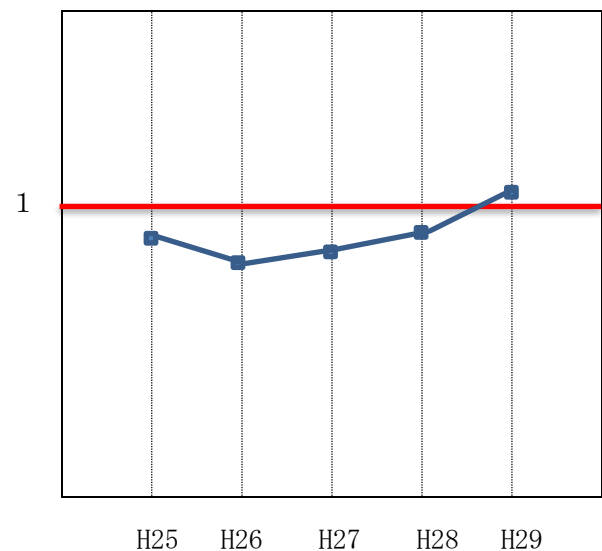
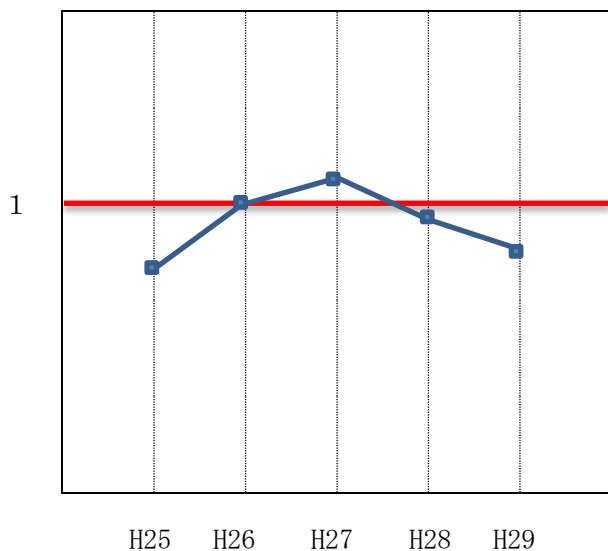
②平均正答率における国との比較(経年)

※全国平均正答率を1としたとき、本町の各教科の平均正答率の平成25年度から平成29年度までの推移

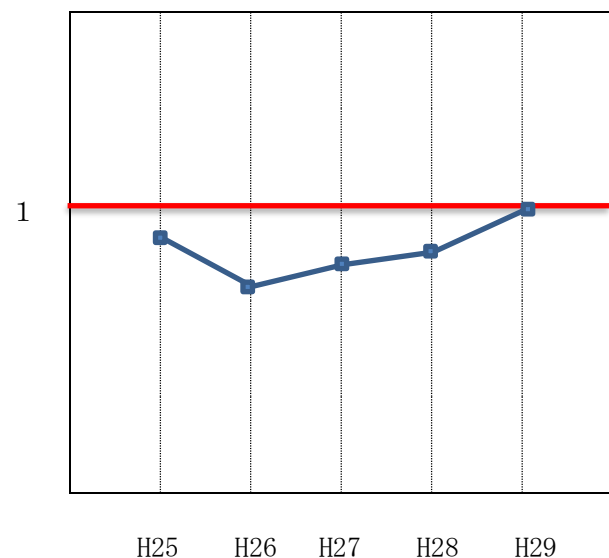
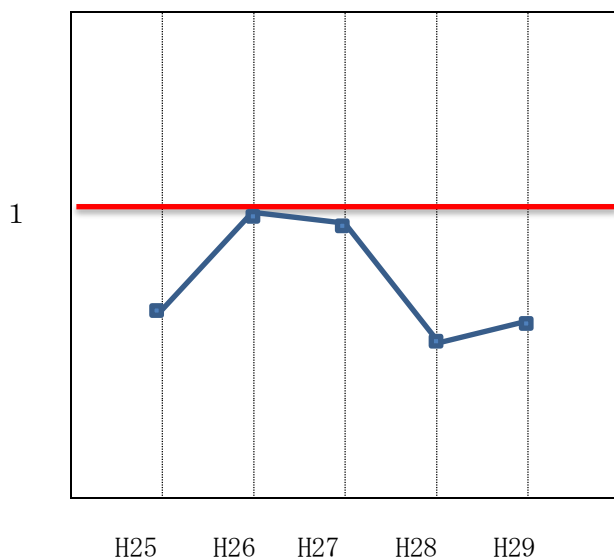
国語A

《小学校》

《中学校》



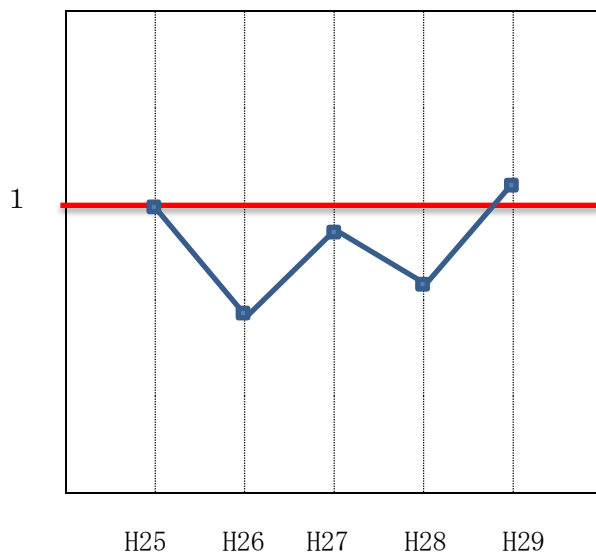
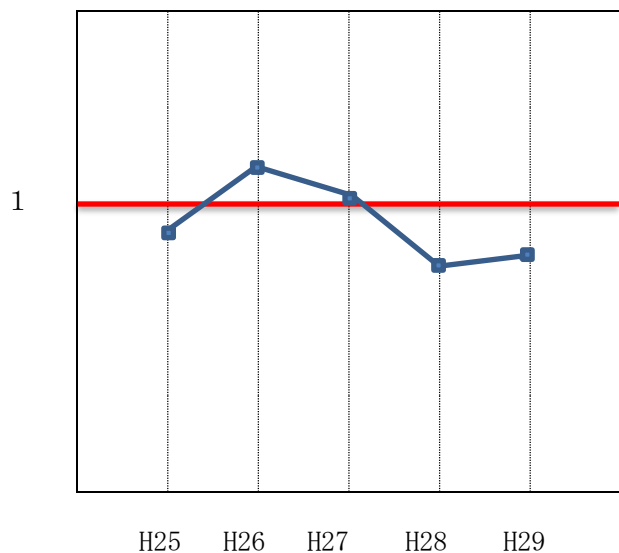
国語B



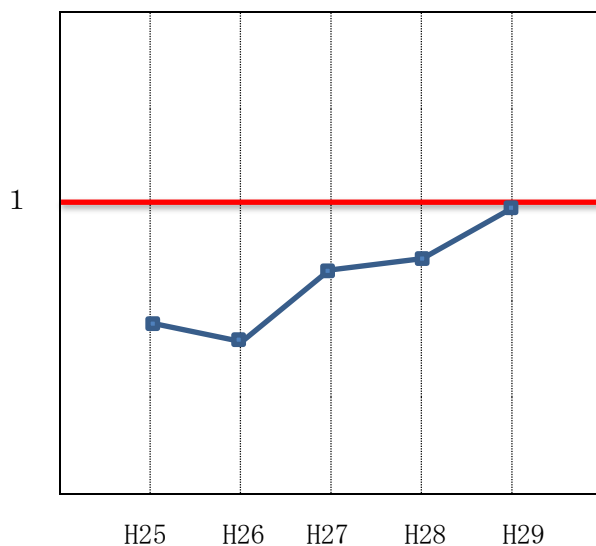
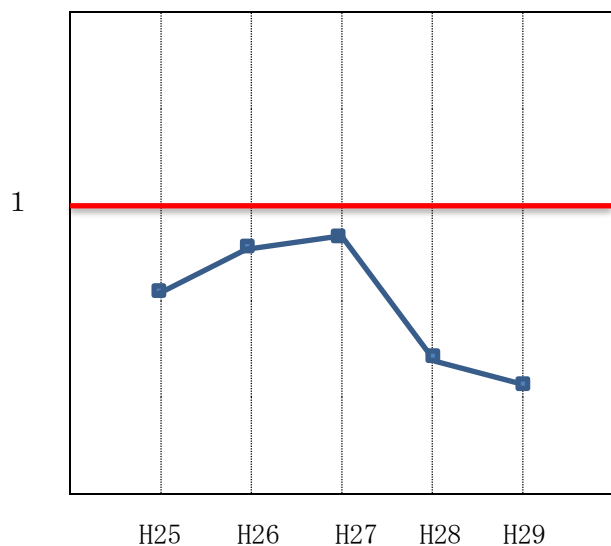
算数A

《小学校》

《中学校》



算数B



小学校

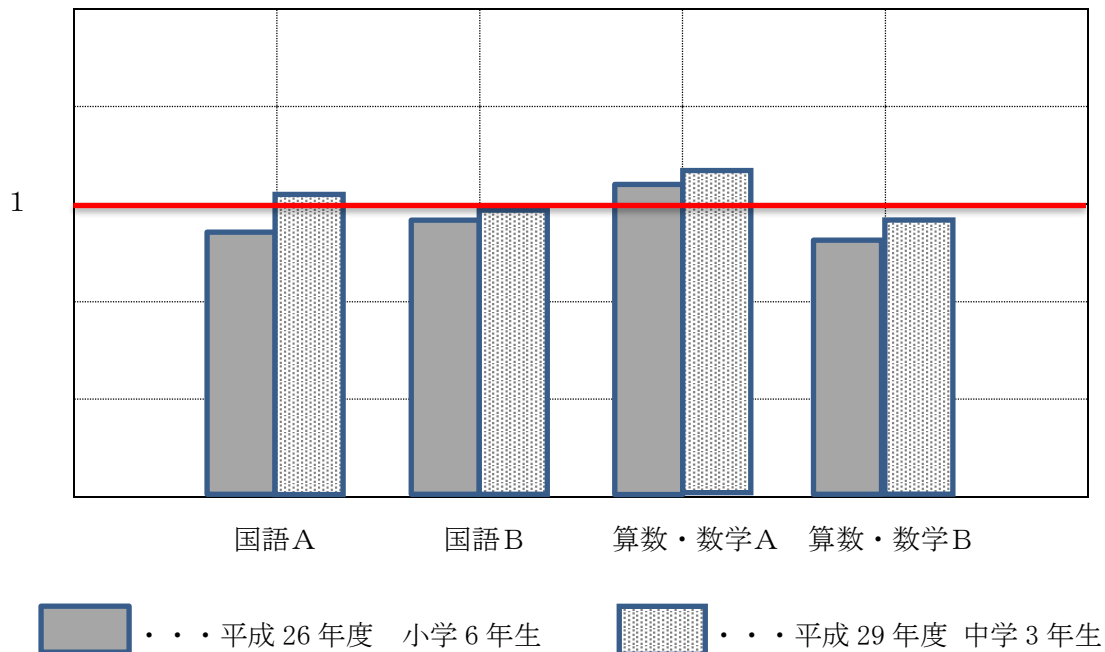
- ・国語・算数、全ての区分において、全国平均正答率に達していない。
- ・国語Aは、前年度より下降傾向であるが、Bにおいては課題があるものの、前年度よりやや上昇傾向にある。
- ・算数Aは、前年度より上昇傾向であるが、Bにおいては前年度よりやや下降傾向にある。

中学校

- ・国語・数学、全ての区分において、前年度より上昇傾向にある。
- ・国語Aは、全国平均正答率に達した。Bにおいても全国平均正答率に近づく結果となった。
- ・数学Aは、全国平均正答率に達した。Bにおいても全国平均正答率に近づく結果となった。

③同一集団の全国を1とした時の平均正答率

※3年前小学校6年生であった集団と今年度中学校3年生(同一集団)の平均正答率比較

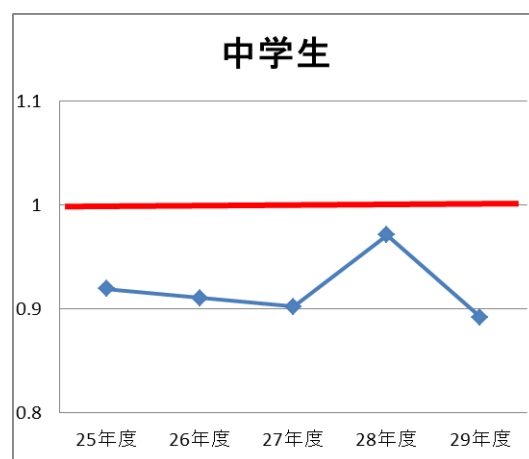
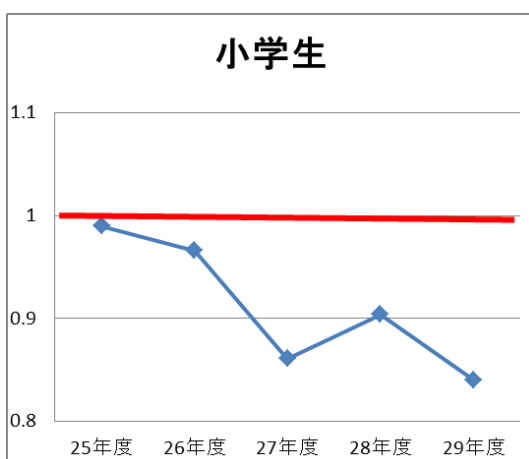


- ・同一母集団で比較すると、全ての区分において小学校6年生より上昇した。
- ・国語Aは、小学校6年生では全国正答率に達しなかったが、中学校3年生において全国平均を上回った。
- ・算数・数学Aは、小学校6年生の時点から全国正答率を上回っており、中学校3年生においてさらに上昇した。

④児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較(経年)

※全国平均回答率を1としたとき、本町の平均回答率の平成25年度から平成29年度までの推移

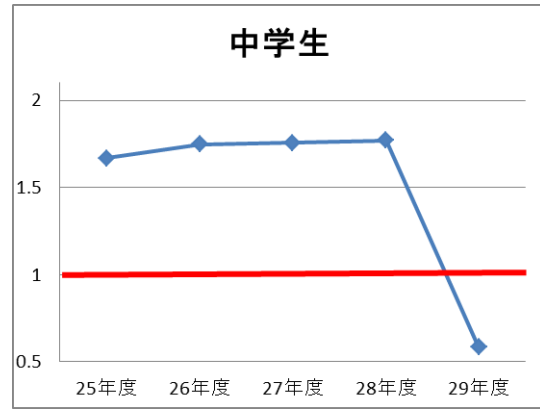
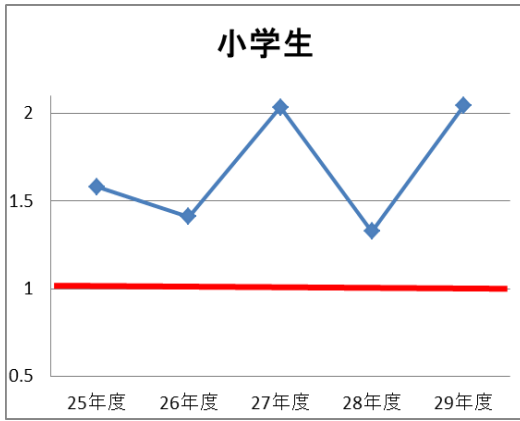
(1)朝食を毎日食べる



- ・小学生、中学生とも全国平均回答率を下回り、前年度は回復傾向にあったが、今年度はさらに毎日食べる児童生徒が減った。

朝食を食べることは、学習活動への意欲や姿勢に深く関係する。今後も生活リズムの向上をめざし、学校と家庭が連携する取組みを推進する必要がある。

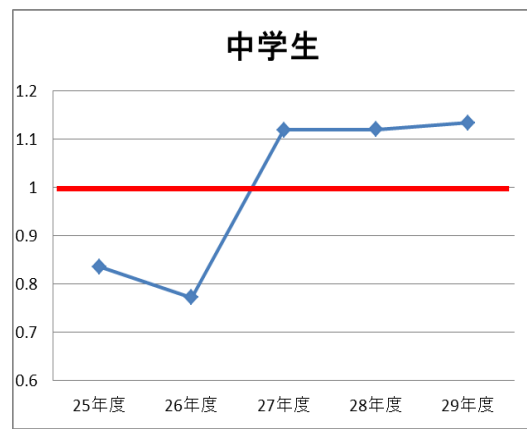
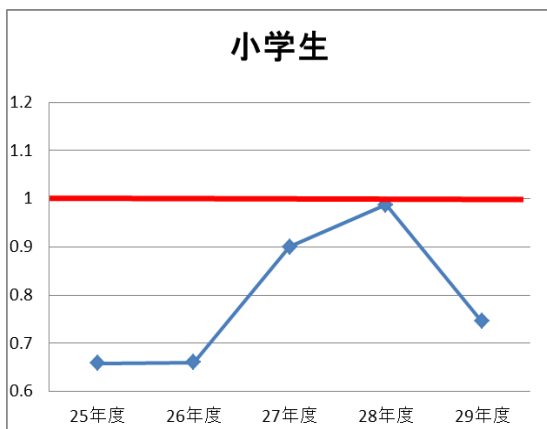
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分未満の勉強時間の割合。



- ・前年度より平日の勉強時間が、1日当たり30分未満の小学生が増えた。
- ・中学生において、1日当たり30分未満の中学生が、激減した。

30分未満しか家庭学習していない中学生が大幅に減っていることは、宿題プリントの作成点検等、組織的な取組みの成果である。今後も小学校・中学校のすべての学年で学習習慣を身に付ける取組みをさらに継続していく必要がある。

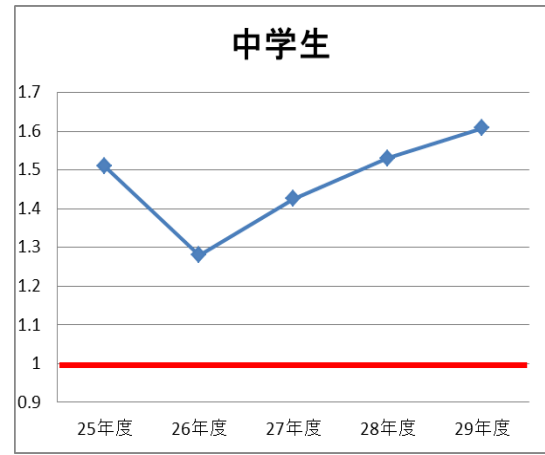
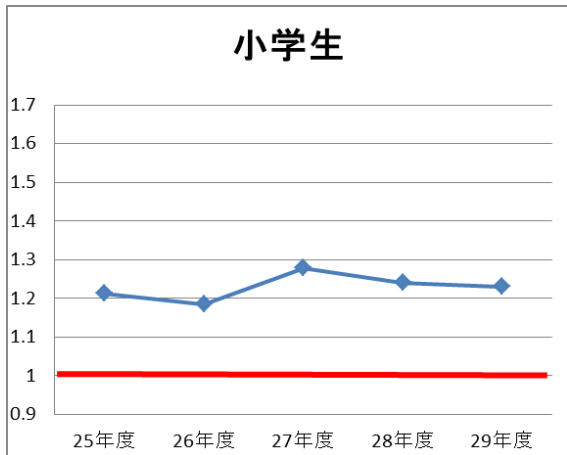
(3) 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対し、「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合。



- ・小学生では前年度全国平均回答率まで改善されてきたが、今年度、課題がみられる。
- ・中学生は、平成27年度より全国平均回答率を上回る状況が続いている。

小学校では、本学年集団の課題として学習計画の立て方や進め方に関して、具体的な指導を組織的に進めていく必要がある。中学校では、全国平均回答率を上回る傾向が続いているので、さらに上回るように自主的な学習や探究的な学習ができるような取組みが必要である。

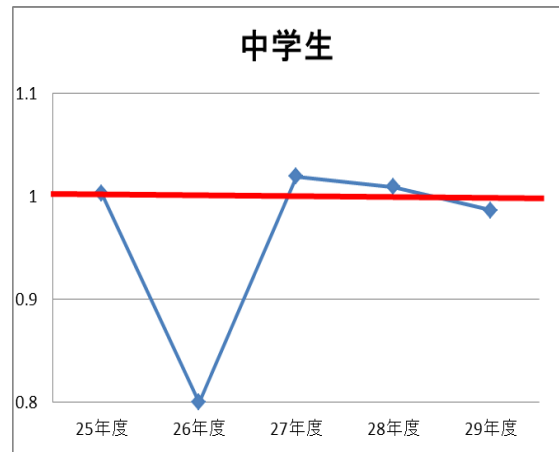
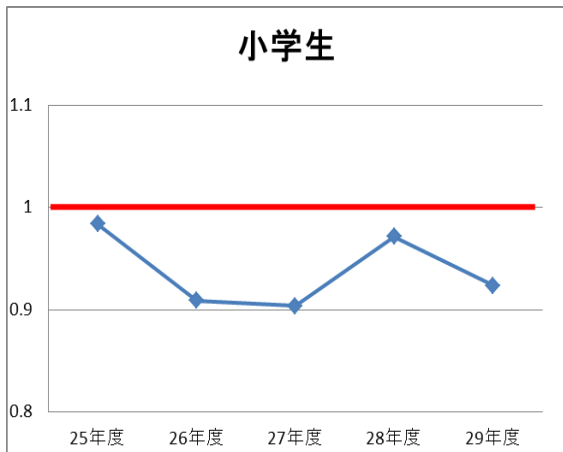
(4)「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合。



- ・小学生、中学生とも全国平均回答率を上回った。
- ・中学生は、地域の行事に年々参加する割合が増えている。

小学生中学生とも本町の児童生徒は、地域行事によく参加している。今後も地域からの働きかけに応じていけるシステムを継続していく必要がある。

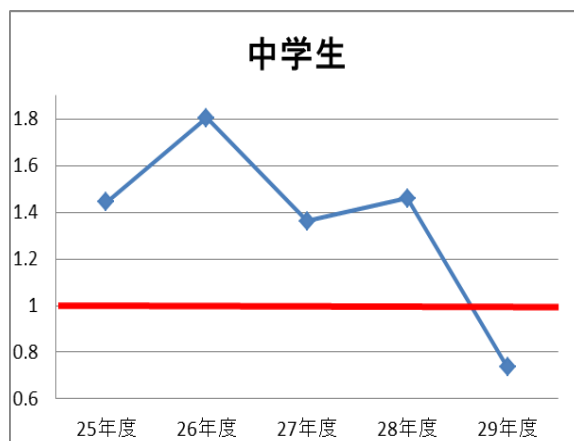
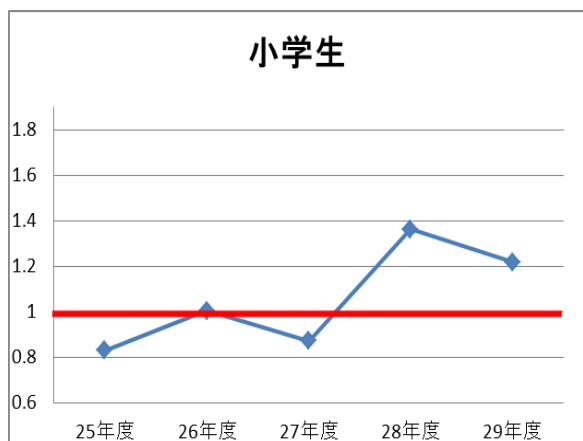
(5)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に対し、「当てはまる」と答えた割合。



- ・小学生は前年度より下回っている。
- ・中学生は、ほぼ横ばい状態である。

仲間を大切に、一人ひとりが大切にされる活動を展開していくためには、小学校中学校において「いじめは絶対許さない」という雰囲気を醸成し、学校教育全体で進めていけるように工夫していく必要がある。

(6)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の質問に対し、「まったく読まない」と答えた割合。



- ・小学校、中学校とも前年度から改善されている。
- ・中学生において、大幅に改善されている。

読書をまったくしない児童生徒が昨年より減っているが、今後、学校図書館司書と学級担任・教科担当等との連携を密にして、「今、読みかけの本を常備する」など、小学校中学校全学年で読書習慣を身につけていけるように読書指導の充実を図っていく必要がある。

⑤小学校・中学校が各区分及び質問紙において、全国平均との差が一番大きい設問を選び分析をおこなった。

《能勢町立能勢小学校》

【国語A】

- 2 (1) 松本さんは、【山村さんへの手紙】の でどのようなことを書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 見学をして興味をもったことについて、本で調べたことを書いている。
 - 2 今と昔の生活のちがいについて、体験して気づいたことを書いている。(正答)
 - 3 山村さんの話の中で、一番心に残ったことを書いている。
 - 4 見学をして新たに疑問に残ったことを書いている。

出題の趣旨 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるかどうかを見る。

○平均正答率

能勢小学校	【 63.5 】 %	無解答率	【 0.0 】 %
大阪府	【 77.1 】 %	無解答率	【 0.2 】 %
全国	【 79.7 】 %	無解答率	【 0.1 】 %

○考えられる課題 (※解答類型を活用して)

誤答については選択肢3の反応率(34.6%)が最も高く、大阪府(20.7%)及び全国(18.4%)よりも高い結果となった。3を選択した理由には、文の冒頭に「特に心に残っているのは、」という書き出しに着目して選んだことが考えられる。本問は、体験活動を通して感じたことや分かったことを捉える内容となっている。本段落の要点、要約をつかめていないことが課題として挙げられる。

○今後の取組みの方向性

本問は、お礼の気持ちを伝えるためにどのような内容が書かれているか、その説明として適切な文を選択する問題である。ここでは要点を見つけ、要約された文を考えることが大切になってくる。文章の内容を的確に押さえるためには、本文の中心文を的確に捉え、文中からキーワードとなる語句を見つけなどし、内容を短くまとめる学習活動が大切になってくる。

☆最後まで問題文をじっくりと読み、問われていることをきちんとつかむ学習習慣を身に付けさせる。

☆文章の要点、要約、要旨をつかみ、それを書き表す力の育成を図る。

【国語B】

3 (3) 【話し合いの様子の一部】の中の [] のところで、田中さんは、【物語の一部】の言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを話しています。あなたが田中さんならどのようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- ① [] の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ② 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書くこと。
- ③ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

出題の趣旨 物語を読み、具体的に叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

○平均正答率

能勢小学校	【 30.8 】 %	無解答率	【 9.6 】 %
大阪府	【 38.9 】 %	無解答率	【 21.9 】 %
全国	【 43.7 】 %	無解答率	【 19.4 】 %

○考えられる課題（※解答類型を活用して）

誤答については、全ての条件を満たしていない解答（23.1%）が最も高く、大阪府及び全国（10.0% 8.2%）より高い結果となった。また、条件①の【物語の一部】の叙述以外を取り上げ、尚且つ条件②も満たしていない解答（21.2%）も反応率が高かった。大阪府及び全国（20.3% 21.0%）で反応率が最も高かったのが条件①は満たしているが、条件②を満たしていない解答であった。解答類型では解答傾向において大きな違いが見られた。課題の一つとしては、引き続き、条件設定をきちんと捉えた上で、自分の考えを文章にまとめていくことが挙げられる。また、一つの場面の叙述だけを断片的に捉え、物語全体を見通して読み取れていないことも課題として考えられる。

○今後の取組みの方向性

無回答率は 9.6% で、大阪及び全国（21.9% 19.4%）より低い結果となった。解答の条件には即さず正答率は芳しくなかったものの、問題を最後までやり切ろうとする児童の姿勢を今後も継続させていきたい。本問では、複数の叙述を相互に関連付けながら読むことができるようにすることが大切となってくる。それには、登場人物の言動や心情、情景描写、繰り返される叙述など、物語全体を通して考えていくような学習課題を設定することが大切であるとする。また、解答する上で求められている条件をきちんと捉えて、問題文全体を読み取っていく学習活動が大切であるとする。

☆複数の条件設定を行う問題を他の教科でも扱い、普段の学習から慣れさせていく。

☆物語全体を通して読み取りを行う学習課題を設定する。

【算数A】

2 (2) 10.3+4

出題の趣旨 四則計算の技能を身に付けているかどうかをみる。
小数と整数の加法「(小数) + (整数)」の計算をすることができるかどうかをみる。

○平均正答率

能勢小学校【 65.4 】% 無解答率【 0.0 】%

大阪府 【 81.2 】% 無解答率【 0.5 】%

全国 【 79.7 】% 無解答率【 0.4 】%

○考えられる課題 (※解答類型を活用して)

誤答については、10.7と解答している反応率(28.8%)が最も高く、大阪(13.6%)及び全国(14.9%)と比較すると高い結果となった。誤答の要因としては、位をそろえずに、末尾をそろえて小数第一位の位の数3と一の位の数4をたしたと考えられる。これは、小数のかけ算の筆算の書き方と混同していることが考えられる。
10 + 4 = 14として捉えられれば、誤答が減ったと考えられる。

考えられる課題として、四則計算における計算のしくみや整数同士の除法を分数で表せることが理解できていないことが考えられる。

○今後の取組みの方向性

小数の加法及び減法の計算が確実にできるようになるためには、計算のしくみである「位をそろえて位ごとに計算する」ことを乗法の筆算の仕方と比較しながら、高学年でも指導することが大切だと考える。また、計算の結果のおよその大きさを見積もることから、筆算の書き方の間違いに自ら気づける指導も大切である。

☆ 計算の結果を見通し、およその答えの大きさを見積もる習慣を身に付けさせる。

☆ 四則計算における計算のしくみの理解を各学年の学習内容において適宜図る。

☆ 図や表を用いて立式したり答えを求めたりする学習活動に取り組む。

【算数B】

5 (1) 「最小の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを1つ選んでその番号を書きましょう。

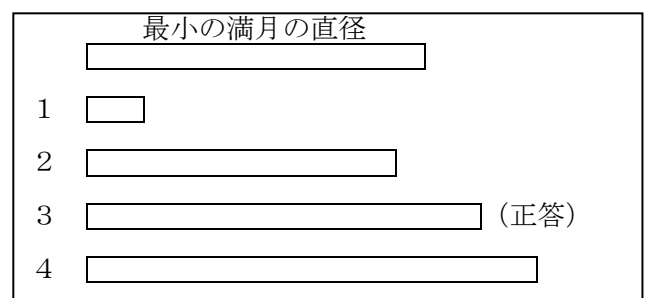
出題の趣旨 示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できるかどうかをみる。

○平均正答率

能勢小学校【 50.0 】% 無解答率【 3.8 】%

大阪府 【 64.3 】% 無解答率【 5.4 】%

全国 【 65.0 】% 無解答率【 5.5 】%



○考えられる課題（※解答類型を活用して）

誤答については、選択肢4と解答している反応率（26.9%）が最も高く、大阪及び全国（21.0% 20.5%）と比較しても高い結果となった。誤答の要因としては、「14%」を割合として捉えられず、量として捉え、目盛りの数「14」を数えて答えたと考えられる。他にも、選択肢2の反応率（15.4%）が高い結果となった。これは、「もとにする量」と「比べられる量」の2量の関係を逆に捉えていたと考えられる。課題としては、問題文にあるもとにする量、比べられる量、割合の関係を図から正しく捉えられていないことが考えられる。

○今後の取組みの方向性

割合については第5学年での既習内容となっているが、「もとにする量」の考え方は低中学年の「かけ算及びわり算」から身につけさせるべき指導内容となる。また、数を扱う場合、「たし算及びひき算」「大きな数」など、全ての学年の学習においてもこの「もとにする量」は大切な基準量となる。本問からは、問題場面の二つの数量の関係を、図や数直線などと関連付けながら、式を立てたり計算の結果を求める方法を考えたりすることが大切になってくる。また、立てた式の意味や計算の結果を求める方法について説明することで、計算の意味と計算の仕方の理解を深められると考える。

☆問題場面の中で何が「もとにする量」にあたるのかを捉えさせる。

☆2量の関係を正しく捉えさせるために、基準量の大きさを1として図や数直線などに表したり、図や数直線から2量の関係を捉えたりすることができるようにする。

【児童質問紙】

《教科、言語活動や読解力に係ること》

（質問番号 68） 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

○割合 「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童の合計の割合

能勢小学校【 51.9 】%

大阪府 【 64.1 】%

全国 【 68.2 】%

○考えられる課題

教科学習や学級活動での話し合い活動が児童の間でまだ十分に行えていないことが考えられる。また、自分の考えが持てない児童が考えを深めたり、自分の考えに自信が持てない児童が考えを広げたりするまでに至っていないことも考えられる。学力のクロス分析においては、教科の平均正答率が高い傾向が見られる質問の1つとして本質問が挙げられている。授業の中で児童の主体的で対話的な活動設定を更に進めていくことが考えられる。

○今後の取組みの方向性

話し合い活動を行う中で「聞いてよかったなあ」「話してよかったなあ」といった実感が伴う活動となるような場の設定づくりを進めることが考えられる。また、考える内容を焦点化し、話し合う時間を保障するなどして、授業の中で交流活動が効果的に行えるようにする。

☆お互いの考えが認め合える学級づくりを行う。

☆自力活動及び交流活動が更に効果的に行えるよう授業づくりを進める。

《授業、学習習慣に係ること》

(質問番号 32) 家で、学校の授業の復習をしていますか。

○割合 「している」と「どちらかといえば、している」と回答した児童の合計の割合

能勢小学校 【 26.9 】 %

大阪府 【 40.6 】 %

全国 【 53.8 】 %

○考えられる課題

家で学校の宿題をしている児童の割合は、大阪府及び全国とほぼ変わらないが、復習となると顕著に低い結果となった。算数の宿題の多くは授業で学習した内容となっているが、多くの児童は教科書やノートをふり返ることなく、理解が不十分なまま宿題をしていることが伺える。また、単元末テストにおいても、自主的に学習をふり返りテストに臨んでいる児童は多くはない。

○今後の取組みの方向性

教科書やノートをふり返ることで、理解が確かなものになっていくことと、自学の仕方を身に付けることによって、復習が学習習慣となるようにする。

☆宿題をする時に教科書やノートをふり返るよう促す。

☆復習を条件とした課題（教科書・ドリル・プリント等）を宿題として出す機会を作る。

《生活習慣や自尊感情に係ること》

(質問番号 38) 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

○割合 「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合

能勢小学校 【 61.5 】 %

大阪府 【 84.9 】 %

全国 【 86.0 】 %

○考えられる課題

全国的には増加傾向にある本質問であるが、本校においては相反する結果となった。学校生活の中では、指導と共に、児童のよいところを褒めることは大切にしてきてはいるが、児童の実感には至っていないことが伺える。また、学力のクロス分析においては、教科の平均正答率が高い傾向が見られる質問の1つとして本質問が挙げられている。児童と教員との良好な関係づくりを今後も行っていくことが求められる。

○今後の取組みの方向性

学校生活において、児童の模範となる学習態度や生活習慣について、肯定的評価を教員から日常的、意識的に行うことで、児童の自己肯定感を高め、児童自らが前向きに学校生活を送れるようにする。

☆肯定的評価を指導の1つの柱に置き、児童一人ひとりの自己肯定感を高め、自己有用感を育てていく。

《能勢町立能勢中学校》

【国語A】

9三

次のアからエの文では、最も適切な言葉を、それぞれ（ ）の1から4までの中から一つ選びなさい。

イ よい結果を早く出したいときは、（1 一事が万事 2 論より証拠 3 急がば回れ 4 光陰矢のごとし）といわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ。

○平均正答率

能勢中学校 【 52.3 】 % 無解答率 【 0.0 】 %

大阪府 【 57.9 】 % 無解答率 【 0.7 】 %

全国 【 61.4 】 % 無解答率 【 0.7 】 %

○考えられる課題（※解答類型を活用して）

1の「一事が万事」を選択している生徒が26.2%いて、聞きなれた「ことわざ」を選んだものと思われる。より多くの「ことわざ」に慣れていく必要がある。

○今後の取組みの方向性

「ことわざ」を各教科等の学習や日常生活の中で教師が意識的に使用したり、新聞やニュース等で使用されているものを生徒に紹介する等、言語環境を整える。また、初めて出合った言葉については、その意味を確認すると共に、具体的な使用例を考える等の学習活動を積極的に取り入れる。

【国語B】

3二

松本さんの学級では、国語の時間に、様々な文学作品に興味をもつことを目的として、一人一ページを使ってそれぞれのおすすめの文学作品を紹介し合う冊子を作成しています。松本さんは、太宰治の「走れメロス」を取り上げています。次は、松本さんが読んだ資料の一部である【資料1】、【資料2】と松本さんが書いている【下書き】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料1】、【資料2】、【下書き】略

二 松本さんは【下書き】にある『走れメロス』の作者「太宰治」の□で囲まれた部分を、【資料1】と【資料2】を参考にして書き直すことにしました。書き直したのものとして最も適切なものを、次の1から4まで中から一つ選びなさい。

- 1 井伏鱒二を師としていた。友人に芥川龍之介、檀一雄がいる。
- 2 檀一雄を師としていた。友人に井伏鱒二、芥川龍之介がいる。
- 3 芥川龍之介を尊敬していた。師は井伏鱒二。友人に檀一雄がいる。
- 4 檀一雄を尊敬していた。師は芥川龍之介。友人に井伏鱒二がいる。

○平均正答率

能勢中学校	【 72.3 】 %	無解答率	【 0.0 】 %
大阪府	【 76.9 】 %	無解答率	【 0.5 】 %
全国	【 78.7 】 %	無解答率	【 0.5 】 %

○考えられる課題（※解答類型を活用して）

解答類型より本校の生徒で「1と解答しているもの」が18.5%もあり大阪府の11.7%、全国の11.2%を大きく上回っている。1の解答選択肢文中の「井伏鱒二を師としていた」という部分だけを読み、「尊敬していた芥川龍之介の…」を読み落とし解答したため、誤答が多かった。

○今後の取組みの方向性

「目的に応じて必要な情報を読み取る」ために、文章を読む際に必要と思われる情報箇所には線を引くなど、得た情報を関連付けたり、再構成したりするように指導する。また他教科においてもグラフや年表等、様々な資料から情報を読み取り、活用することができるよう指導する。

【数学A】

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(2) a と b の関係が $100 - 20a = b$ の式で表される場面を、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

ア 1個100円のガムを1個と、1個20円のあめを a 個買ったときの代金は b 円でした。

イ 1個100円のガムを20円引きで a 個買ったときの代金は b 円でした。

ウ 1個100円のガムと1個20円のあめを、それぞれ a 個ずつ買ったときの代金は b 円でした。

エ 100円で1個20円のあめを a 個買ったときのおつりは b 円でした。

オ 100円で1個20円のあめを1個と1個 a 円のガムを1個買ったときのおつりは b 円でした。

○平均正答率

能勢中学校	【 69.2 】 %	無解答率	【 0.0 】 %
大阪府	【 73.8 】 %	無解答率	【 0.3 】 %
全国	【 75.4 】 %	無解答率	【 0.3 】 %

○考えられる課題（※解答類型を活用して）

正解は「エ」であるが、本校の生徒で「イ」と解答している生徒が 21.5%おり、大阪府「15.9%」、全国「15.4%」より大きく上回っている。文字式 $100 - 20a$ を $(100 - 20)a$ と捉えたため誤答が多かった。

○今後の取組みの方向性

文字式の意味を理解させることと、具体的な事象の中での文字式の成り立ちを理解させるべく、日常より式の意味を考えた上で、正答を導く指導を行っていく。

【数学B】

3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
以上 未満				
10～20	1	0.02	0	0.00
20～30	6	0.10	1	0.01
30～40	18	0.30	6	0.07
40～50	21	0.35	19	0.22
50～60	11	0.18	33	0.39
60～70	3	0.05	23	0.27
70～80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

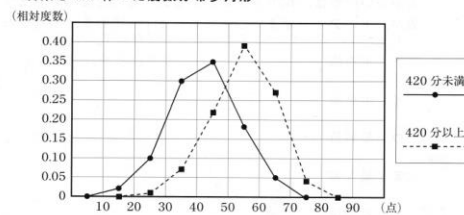
5) 体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分(1日あたり60分)運動することを目標にしようと考えています。そこで、体育委員会では、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。体育委員の若菜さんは、全校生徒のうち女子の結果を、下の度数分布表にまとめました。

1週間の総運動時間の度数分布表(女子)

階級(分)	度数(人)
以上 未満	
0～300	55
300～600	12
600～900	26
900～1200	29
1200～1500	15
1500～1800	6
1800～2100	2
合計	145

次の(1)から(3)までの各問に答えなさい。

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

○平均正答率

能勢中学校 【 16.9 】 % 無解答率 【 29.2 】 %
 大阪府 【 14.2 】 % 無解答率 【 37.8 】 %
 全国 【 17.6 】 % 無解答率 【 31.2 】 %

○考えられる課題（※解答類型を活用して）

無回答率が非常に高く、記述式の問題に対する苦手意識が非常に高い。

○今後の取組みの方向性

まず、文章をよく読み、問われている内容を理解するところから始める。

【生徒質問紙】

(質問番号 19) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

○割合 「だいたい週に4回以上行く」と回答した生徒の割合

能勢中学校 【 1.5 】 %

大阪府 【 2.1 】 %

全国 【 2.2 】 %

○考えられる課題

昼休みの時間が短いことや、放課後部活動に参加するため、図書室に行く時間の確保が難しい。

○今後の取組みの方向性

図書室で本を借り、家で読書をする習慣を身につけさせる。

(質問番号 34) 家で、学校の授業の復習をしていますか。

○割合 「している」と回答した生徒の割合

能勢中学校 【 10.4 】 %

大阪府 【 13.9 】 %

全国 【 18.9 】 %

○考えられる課題

家で宿題以外に学習しようとする意欲があまりない。

○今後の取組みの方向性

現在も「自学ノート」の取り組みを行っているが、今後も引き続き自学自習の促進のため、「自学ノート」の取り組みを行う。

(質問番号 1) 朝食を毎日食べていますか。

○割合 「食べている」と回答した生徒の割合

能勢中学校 【 73.1 】 %

大阪府 【 78.7 】 %

全国 【 82.7 】 %

○考えられる課題

就寝時刻が遅く、起床が遅くなり、朝食を食べずに登校している可能性ある。

○今後の取組みの方向性

学校でも「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、ご家庭でもご協力いただく。